

## 巻頭言

# CNCP の発展に向けて

NPO 法人シビルNPO連携プラットフォーム

理事 橋本 鋼太郎



新しい公共の必要性や共助社会の充実が表明されているなかで、NPO 法人の役割は極めて重要になってきている。特にわが国は甚大な災害の多発国であり、減災、防災、国土強靱化、そして人口減少、高齢化の進む中で地方再生・創生、さらに社会インフラの維持管理、更新等の土木分野における課題が山積している。

現在、土木系 NPO 法人はおおよそ数百に上ると見られている。個々の NPO は各地域で特色を生かしつつ課題に対して活発に活動している。しかし、財政問題を抱えながらその能力を十分に生かしているとは言えない状況がみられる。

従って、各 NPO が社会貢献事業を充実させ、社会の理解を得ているためには土木系 NPO 全体として活動を活性化し効果をあげて、社会にその存在を評価されることを支援していく必要がある。

(公社)土木学会は議論を経て、平成 26 年に土木学会 100 周年記念事業の一つとして CNCP を発足させた。CNCP は土木系 NPO 法人相互、あるいは NPO 法人と他の組織（行政、企業、大学等）との連携、協働を促進するための中間支援組織である。現在 NPO 法人会員 20 法人、個人会員 20 名余、賛助会員 30 社余という規模で運営されている。この状況は全国的に土木系 NPO 法人の活動を展開していくうえでは不十分である。各都道府県において少なくとも数社以上の参加が望まれる。各会員協力のもと土木学会及びその 8 つの支部と連携して全国で 200~300 社の参加を呼びかけていく必要がある。

その際、現在の会員には前述のとおり、法人会員、個人会員、賛助会員であるが、これに参画することも可能であるが、今後 CNCP では参画する NPO 法人に義務負担の少ない、しかもメリットが多い CNCP サポーター制度を導入し、募集することとしている。これは登録制で登録費用等は無料である。

参加すると CNCP との情報共有、交流、連携、協働等が可能であり、各 NPO 相互の連携も図られる予定である。土木系 NPO の裾野が広がり、新しい公共の担い手として連帯感を持って社会に貢献していくこと、また、それが社会に正しく評価され、認知されることが大変望ましいことと考える。

東日本大震災、関東・東北豪雨による鬼怒川氾濫、熊本地震等において NPO の活動は目覚ましいものがありますが、一方で地道に人知れずに活動している NPO も数多く存在しています。これらの土木系 NPO に光を当てることにより、土木全体の評価を高める良い広報の大きな力となると考えます。

多くの NPO に積極的な参加を呼びかけましょう。